

< 特別寄稿 >

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介させていただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生

第20回

ジャガイモ



ジャガイモはナス科に属す多年草です。ペルー南部とボリビア西部周辺が原産地と考えられ、現地では紀元前5000年頃に既に食され、紀元500年頃には先住民による栽培が始まりました。

以後メキシコに伝播し、12~16世紀にインカ帝国に勢力を拡大しました。

16世紀前半にはスペインの兵士達がヨーロッパへ導入しましたが、途中船内で芽が出て毒性が高まったことなどが相まって、有毒説が先行して普及が進みませんでした。ジャガイモの食経験が南米からヨーロッパへ正確に伝わらなかったことに起因します。

このためヨーロッパで栽培が徐々に拡大して行く18世紀中期までの約200年間、食用としてのジャガイモの足踏み状態が続きました。

フランスの上流社会ではジャガイモを育てその花を鑑賞用としていました。日本でも同様な事が知られています。

ジャガイモには毒性のあるソラニン等のステロイダルアルカロイドを含んでいます。特に日に当たるといもや茎の部分が緑化してアルカロイドの生合成が進みその量を増やしてゆくので、中毒症状を起こし易くなります。

一方生体ではステロイダルアルカロイドはステロイドホルモンへと変換するので体に良いと言う説もあります。

本画はTurpinによる1700年代半ばの作品で、手彩色によるものです。

